

まめでが～んす
～ 今日も元気ですよ ～

広島市立安佐市民病院広報紙

— 第26号 —

〒731-0293 広島市安佐北区可部南二丁目 1-1

TEL : 082-815-5211 (代)

<http://www.asa-hosp.city.hiroshima.jp>

病院長就任のごあいさつ



広島市立
安佐市民病院
病院長
多幾山 渉

平成22年4月1日付にて、日高徹先生の後任として、広島市立安佐市民病院長に就任致しました多幾山渉です。昭和55年開院時の初代病院長河野義夫先生から始まり、岩森茂先生、平位剛先生、奥原種臣先生、上田一博先生、日高徹先生と継承されてきた伝統を受け継ぎ、微力ながら新任務に専心努力する所存でございます。

安佐市民病院が、近い将来直面する最も大きな問題は言うまでもなく、老朽化した南館の建替えです。そして、その先には念願の救命救急センター指定への道へと続いているのです。市のプランでは10年後ということになっていきます。私も含め当院の職員の多くが、「安佐市民病院がこんな不便なところでなくて、もう少し便利なおところにあれば今よりずっと発展していただろう。建て替え時にはもっと便利なおところに移転したほうが良いのでは。」と考えているようです。そこで、この機会に立地条件を中心に当院の問題点を考えてみま

した。
ご存知のように、広島市の中心部には半径2キロ以内に老舗の大病院が4カ所もあり、その近くに中堅病院がいくつかあります。市周辺からのアクセスも便利で、当院の周辺にお住まいの患者さんも、少なからず市内の病院へ受診されているようです。一方、当院は広島市中心部より約15キロメートル離れ、近辺に大規模病院はおろか、中堅クラスの病院もほとんどありません。大都市の中心部を思えば、不便な田舎に立地しています。が、実は、中国自動車道および山陽自動車道のインターチェンジに近接しており、広島医療圏の北部と北広島医療圏、さらに島根県の一部をも包括した広大な地域の住民にとっては他の病院へ行くより比較的利益が良いのです。この立地条件があったからこそたくさんの患者様に利用され、ここまで発展することができたのではないのでしょうか。今や当院は、文字通りこの広大な医療圏の中核病院となり、地域にとっては不可欠な存在と自負しています。

しかし、当院の現状は地域の住民や医療関係者のみなさんに十分満足して頂ける段階には達していないと思っています。地理的利便性の問題点として公共交通機関のアクセスの悪さ、幹線道路からの進入路に踏切があることの弊害、駐車場の狭隘化等々があげられます。また、南館は築後30年以上経過し、設計が古く、プライバシー保護への配慮がやや欠けていて快適性に問題がある上に、耐震性不足、面積不足等多くの問題を抱えています。これらの問題を一挙に解決できるチャンスが病院建替えと言えるでしょう。現地建替えか移転かの問題を含め、20～30年後の医療情勢を予測し、必要な病院機能を見積もって建替えなければなりません。

この度の病院機能評価の受審結果、様々な分野でのスタッフ不足が指摘されました。当院の医療従事者の増員に関しては、公務員の定数削減の問題とも重なり、複雑な問題を抱えています。が、不足している人材は補充しなければならぬでしょう。このような様々な問題と立ち向かいながら、先達の敷いたレールを走りつつ、地域の方々のお考えを取り入れ、青写真を焼き直しながら、皆様にとって便利で、信頼される病院造りをこの地で目指して行きたいと考えております。

以上、ご支援の程重ねてお願い申し上げます。



食事療法は塩分控えめも大切です



心臓ってこんなふうになってるんですよ



命の貯蓄体操で健康確保



はい、血圧は大丈夫ですよ



お祭りの定番はやっぱりヨーヨー釣りだよ



健康は日々の正しいウォーキングから



脳卒中予防はこのパンフレットも
参考にしてくださいね



何が聞こえるかな～

第7回 安佐市民病院健康祭り

今年も笑顔いっぱい、楽しい一日でした。



私の血糖はどうかしら？



医師1年生です、頑張ります



骨密度心配なのよね



「癌は早期発見早期治療」と
和の会も啓蒙してくれました



可部カラス会による
地域の紹介コーナーです



へ～え、レントゲンって
こんな風に写るんだあ



今年は消防自動車が来てくれました



どう、ナイスバディでしょ？



スタンプラリーの後は景品ゲット



女性消防隊による
住宅火災警報装置設置の寸劇です



今年もツクシ工房さんに手工芸品の
販売をしていただきました



体脂肪はどうか？



健康祭りの記念に健康毛筆



よろず健康相談では
若い医師もお答えします



正しく歯磨きできてますか？



オープニングは元気に文教太鼓で



私大きくなったら絶対に看護師さん



ウイングさんの
シフォンケーキは絶品です



僕も将来は救命救急士



お父さんも赤ちゃんクイズに挑戦



ストレスはゲームで発散です



私大きくなったら絶対に看護師さん



あら、私の絵少し傾いちゃってるわね



田島のおじちゃんのリサイクル
おもちゃはいつも人気です

集中治療室の 整備拡充のお知らせ

ICUは、意識、呼吸、循環、代謝などの重篤な急性機能不全の患者様を一ヶ所に集め、高度な医療機器・薬物を駆使し24時間体制で治療することで、救命を目指すことを目的とした施設です。当院のICUは、平成4年の開設時より開頭、開心、開胸、開腹等の大きな手術後の患者、外傷、中毒、心肺蘇生後の重症救急患者、院内の急変患者等に対する集中治療を行っています。高齢者の増加による術後合併症の増加、地域住民の要望などにより、ここ数年連日満床が続き、去年は病床利用率が92.5%にまで高まりました。

こうした状況においては、既存の4床では手術後患者のケアに必要な在室日数が確保できにくく、さらに重篤な救急患者全員を受け入れることができずにやむを得ず他病院へ転送する事態も生じていました。

このため、平成21年度に(1)ICU4床を増床して8床にする、(2)24時間体制の勤務を組むべく医師3名・嘱託医3名を配備する、(3)ICUが十分機能するよう看護師17名を増員する、(4)病室の拡張工事や必要な医療機器の導入を行うなど、設備・人員の体制整備を行って本年3月26日から運用を開始いたしました。

このことにより、地域の重症救急疾患の患者様への対応が容易となること、大手術後の不安定な時期により充実した医療の提供が可能となること、十分な人員による治療で安全な医療が可能となることなど、地域の皆さまの需要に応えることが可能となりました。

これからも職員一同、地域の基幹病院としての責務を果たすべく能力の向上に努めたいと考えております。



集中治療部主任部長
世良 昭彦



庶務係施設担当
福長 賢



平成22年度採用 初期臨床研修医6名の顔ぶれ

臨床研修プログラム責任者（循環器内科、総合内科）

加藤 雅也



平成16年度から新臨床研修医制度が必修化され、6年が経過しました。

当院は当初から初期臨床研修医を採用し、これまでに27名の研修医が初期臨床研修を修了し、このうち9名が3年目も当院の医師として残りました。外科、麻酔科、産婦人科、小児科といった特に医師不足とされる科にそれぞれ5名、1名、2名、2名の研修医が進み、27名中19名が現在も広島県内で活躍しています。

この4月1日からは、新臨床研修医制度となって7回生となる初期臨床研修医6名が当院に赴任致しました。いずれも体力には自信のある元気で明るい若者ばかりです。

● 平成22年度採用の初期臨床研修医6名 ●



こうもと まさこ
甲元 公子
(広島大出身)

在学中は水泳部のレギュラーとして活躍しました。
バタフライでは西医体で優勝した実力の持ち主です。



こばやし まゆこ
小林 真由子
(埼玉医大出身)

大学在学中は空手道部に所属し、学生会会長として活発に学生会活動も行っていました。お兄さんも当院の元研修医です。



さかのうえ いちろう
坂之上 一郎
(広島大出身)

在学中は卓球部のエースとして西医体優勝に貢献しました。
他大学にも多数の女子学生ファンがいたというイケメンです。



まつい しょうご
松井 翔吾
(佐賀大出身)

在学中は軽音楽部部長としてメンバーをまとめました。
ドラム演奏では全国大会に出場した実力があります。



みうら かつや
三浦 勝也
(広島大出身)

大学在学中はサッカー部に所属し、グラウンドを走り回っていた体育会系です。体力と忍耐力には自信があります。



やまね よしたか
山根 吉貴
(広島大出身)

大学在学中はバレー部を西医体優勝に導きました。
チームプレイの経験を医療現場でも生かせることでしょう。

地域医療を担う基幹病院として、いつまでも元気で優秀な多くの若い医師たちが院内を走り回っている安佐市民病院を維持したいと思います。

地域の皆さまにおかれましては今後とも当院の研修医教育、若い有望な医師の教育になお一層のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

フットケアで糖尿病性足壊疽を予防しましょう！

足の切断の原因の第1位は『糖尿病性足壊疽（足が腐る）』です。30秒に1本、世界中で糖尿病性足壊疽により足が切断されています。「怖い、どうしよう。」と思われるかもしれませんが、ご安心ください。その85%はフットケア（足の手入れ）で予防できると言われています。日々の生活で少し気をつけるだけで足を守ることができるのです。では糖尿病性足壊疽はどうして起こり、どのようにすれば防げるのでしょうか？

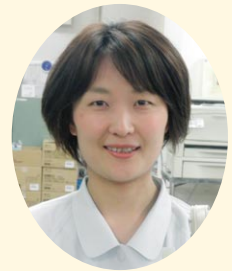
まず糖尿病性足壊疽の原因として①高血糖、②糖尿病性神経障害、③足の閉塞性動脈硬化症があります。血糖値が300mg/dl以上になると抵抗力が低下し、小さい傷でも化膿しやすくなります。さらに糖尿病性神経障害があって足の「痛い、熱い」といった感覚が鈍くなると傷や火傷の発見・処置が遅れて壊疽になります。また閉塞性動脈硬化症で足の血流が悪くなり壊疽になることもあります。

これらを防ぐためにも以下のことを心掛けましょう。

- ① 血糖・血圧・脂質のコントロールをする。
- ② 靴下を履いたり、靴を履く前に石がないか見て足の傷を防ぐ。
- ③ 湯たんぽの使用を避けて火傷を防ぐ。
- ④ 足に傷・火傷がないか、足が冷たく紫色になっていないか毎日、足を見て触る。
- ⑤ 傷・火傷があれば消毒して清潔なガーゼを当て、早目に皮膚科へ受診する。
- ⑥ 禁煙をし、正座を避けて足の血流を保つ。
- ⑦ 白癬（足の皮膚や爪の水虫）があれば皮膚科で治療し、毎日足を洗って清潔にする。
- ⑧ 足に合った靴を履き、靴ずれやタコ・ウオノメを防ぐ。
- ⑨ 深爪をせず、傷・巻爪を防ぐ。
- ⑩ タコ・ウオノメは皮膚科で処置してもらう。

ご自分で足を見たり、爪切りが困難な方はご家族に協力して頂きましょう。

フットケアでお悩みの方は気軽にご相談ください。



内科外来
糖尿病看護認定看護師
澤本 典子



フットケアの研修



カッターはこのようなして....



爪の手入れ方法について

トイレでホッと一息

皆さん、トイレの一輪挿しの可憐な花にお気づきでしょうか？

外来診療フロアのトイレに飾られているこれらの花は清掃を担当していただいている方々によるお心使いなのです。毎週のように取り替えられており、いつも季節を彩っていただいています。

病院受診の患者様のみならず私たち病院職員の心をも和ませて下さっています。トイレでのホッと一息、今日もどんな花が飾られているのが楽しみです。



W A P 友 の 集 い

「WAP友の集い」とは、心臓疾患で安佐市民病院にて心臓リハビリなどの加療を受けている患者さんたちがお互いに悩みを相談しあったり、医療スタッフとの交流を通じながら正しい情報に基づいて治療を継続して行こうという患者さんの集まりです。春の遠足と秋の講演会、これら一年に2回の行事の他に患者さん個々に情報の交換なども行っているようです。この度、この集いに参加している会員の上土井 柁さんから貴重な原稿を頂きましたのでご紹介いたします。

ワップ健康教室に参加して

上土井 柁

平成八年四月十三日に発足して早や十四年、会員百十四名と増加しています。健康教室への参加者も増加し、西原会長、世話人西山さん達の奉仕と努力に感謝いたします。循環器科土手先生やスタッフの方々の患者を見守る心情と、健康を取り戻させてやりたいとの思いの中で多くの時間と労力を惜しまれなかった事に心からお礼を申し上げます。

私は土手先生、内田先生のおかげで今日あることを感謝し、精一杯生きています。循環器科から心臓血管外科へと連携された結果の賜と思っています。会員の皆様も経験されていることと存じます。記念誌の中で内田先生は循環器科のリハビリ設備が充実し、患者が安心して社会復帰できる体制だと述べておられます。循環器科、心臓血管外科、リハビリ等最高の医療機関である安佐市民病院の患者で良かったと私は確信しています。

安佐市民病院を拠点とした広島県北の総合病院や開業医院の先生方との連携組織が立ち上げられました。中山間地域に住む私達にとって最高の恵みで、地域住民は安心した毎日が送れるものと思われまます。

過去数回郊外実施の教室に参加させて頂きました。参加者の安否確認や交流を通し、暖かい輪が年々広がって来ている。西原会長が池の中に小石を投げ入れ、小さな水の輪が段々と大きな輪となって今日の盛況をみていると思います。盛況のなかでの土手先生の講話の最後に、昨年は浄土真宗白骨の御文章、今年は般若心経など聞く者の心の有り様、はかない命など心の安らぎを感じさせる内容で、私達に何かを問いかけていただいている様に感じました。突然やってくる死、ゆっくり枯れ木が倒れるようにやってくる死、そこには延命処置もなく潮が引くように人生を終える。住み慣れた自宅での臨終を迎えることへのメッセージが込められているように聞き取ることが出来るのです。そして心のケアを受けた健康教室の一日でした。



土手先生の講義



宮島に行きました



仲間たちと語らう

【病院機能評価認定の更新】

病院機能評価とは療養環境の整備や医療サービスが安全性にも配慮された形で適切に提供されているのかなど、患者様中心の医療体制が整っているのかを病院機能評価機構に審査していただき、お墨付きをいただくというものです。

安佐市民病院は5年前に機能評価の受診をし、適切な医療機関として認定されました。この病院機能評価は5年ごとに受診することになっており、本年は認定後5年目を迎え、更新のための受診をいたしました。築後ほぼ30年を迎え、一部に老朽化等が見られて病院機能に影響が出始めていますが、日々進歩する医療技術の提供、安全で安心な医療サービスの提供、最善で適切な医療の提供を目指して職員一丸となって取り組んでいる事が評価され、再度認定を頂くことができました。

今後も地域医療の中核病院として、当院は地域の皆さまと共に成長してまいります。



安佐市民病院の理念と基本方針

理 念

- ・愛と誠の精神をもって医療を提供します。
- ・地域の基幹病院として高度の医療・ケアを行います。

基本方針

1. 患者さまの立場を尊重し、理解と納得 にもとづいた医療を行います。
2. 安全な医療と快適な療養環境の提供に努めます。
3. 地域と連携し、地域医療、救急医療、トータルケアの水準の向上に努めます。
4. 最新の医療にとりくみ、医療・医学の進歩に貢献します。
5. より良い医療サービス提供のため、健全な病院運営に努めます。